

報道関係者
地域広報関係者 各位

令和3(2021)年12月2日

国際日本文化研究センター

京都国際マンガミュージアムでの企画展
**「縮小社会のエビデンスとメッセージ：
人口・経済／医療・福祉／教育・文化
／地域・国際、そしてマンガ」**
の開催について

国際日本文化研究センター（日文研）はこの度、〈縮小社会〉としての現代日本の実相と、そうした社会を生きるヒントをメッセージとして提示する企画展「縮小社会のエビデンスとメッセージ：人口・経済／医療・福祉／教育・文化／地域・国際、そしてマンガ」を、京都国際マンガミュージアムにおいて、下記のとおり開催します。

同展は、日文研と京都精華大学の協定に基づき、日文研における共同研究会「縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から」の問題関心を紹介するものとして企画されました。

記

1 開催概要

- (1) 期間
2022年1月22日（土）～5月16日（月）
- (2) 時間
午前10時30分～午後5時30分（最終入館は午後5時）
- (3) 休館日
毎週火・水曜日、2月24日
※2月23日、5月3日、5月4日は開館

2 会場

京都国際マンガミュージアム2階ギャラリー1, 2, 3
(京都市中京区烏丸通御池上ル)

3 内 容

日本の人口は、2008年の1億2808万人をピークに、急速な減少に転じている。人口が縮小・高齢化し、加えて経済的な豊かさが失われるなかで、社会のさまざまな課題が噴出している。人口に見合った社会・経済・文化活動とは、どのようなものになるのだろうか。社会的・文化的活動を経済の文脈に限定せず、それがもつ個の「生」を充実させる働きをどのようにいかしていくことができるか。縮小社会のなかでの多様な動きをみわたせば、これまでとはまったく異なる発想での「生」のつむぎ方がみつかるかもしれない。

4つのセクションにわかれた本展では、8つの視点から、〈縮小社会〉の実相を示すデータ＝「エビデンス」と、そうした現実を生きるためのヒント＝「メッセージ」を提示する。

《展示構成》

人口・経済

人口減少によって存亡の危機を迎えている自治体がある。需要が縮小して経済が回らなくなり、さらに人口が減る。一方で、一人あたりの豊かさはむしろ増すとの意見もある。人口減少の実態と、地域や個人の豊かさを考える。

○主な展示物

- ・日本の人口減少シミュレーション動画
- ・縮小地域からのビデオメッセージ

医療・福祉

高齢者の社会的孤立が深刻だ。文化的な活動によって地域社会との関係性を作り、孤立を防ぐ取り組みが行われている。広がりをもつ障害者による創作活動にも、縮小社会を生きるヒントがある。

○主な展示物

- ・関係をつむぐ、障害のある人の創作物
- ・社会との関わりを作る「屋台カフェ」

教育・文化

出版業界が著しく縮小している。出版社の倒産や書店の閉店によって、良質な言説を世に送る回路が閉ざされていく。学校の縮小も急速に進んでいる。一方で、閉校した校舎を文化施設として再生する取り組みが進んでいる。

○主な展示物

- ・縮小する出版・書店に関する写真
- ・京都市内の学校の再活用に関する資料

地域・国際

日本経済は、もはや外国人の労働力なくしては回らない。ところが、日本は移民の受入れに消極的で、外国人労働者への人権侵害が後を絶たない。だが、日本文化を代表する和食をよくみれば、外国文化の影響がわかる。

○主な展示物

- ・日本で買える世界の食材
- ・川村淳平による「多国籍な和食」の図解イラスト（原画）

その他

【しりあがり寿による描き下ろしマンガ作品】

マンガ家のしりあがり寿が本展のために描き下ろした、8つのテーマの4コママンガを展示します。

【マンガ・参考書コーナー】

縮小社会をテーマにしたマンガ作品と、参考となる書籍を展示します。

【VR空間でのオンライン展示】

ネット上のヴァーチャル空間にも展覧会を再現します。

（2月初旬公開予定。詳細は後日京都国際マンガミュージアムのホームページ等でお知らせします。）

4 料 金

無料（ただし、マンガミュージアム入場料〔大人900円、中高生400円、小学生200円〕は別途必要）

5 主催など

主催

国際日本文化研究センター共同研究会「縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から」（人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」）／京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム

企画

山田奨治（国際日本文化研究センター教授）／服部圭郎（龍谷大学教授）／服部正（甲南大学教授）／谷川建司（早稲田大学客員教授）

展示・制作協力

高橋耕平（アーティスト）、しりあがり寿（マンガ家）

6 関連イベント

(1) 作品上映+監督とのトーク・セッション「縮小社会を考える映画祭」

日程および上映作品：ゲスト

縮小社会について考えさせるドキュメンタリー映画を上映し、展示企画者でもある谷川建司が、それぞれの監督を迎えたトーク・セッションを繰り広げます。

① 2022年1月29日（土）

『双子暦記 私小説』（2018年）：原将人監督／原真織（女優）

② 2022年1月30日（日）

『桜の樹の下』（2016年）：田中圭監督／三脇康生（仁愛大学教授，コメンテーター）

③ 2022年2月19日（土）

『春画と日本人』（2018年）：^{おおがき}大塙敦監督／石上阿希（国際日本文化研究センター特任助教，コメンテーター）

※18歳未満はご参加いただけません

※会場にて日文研所蔵春画の特別展示あり

④ 2022年2月20日（日）

『孤独なツバメたち』（2012年）：津村公博監督／玉野井麻利子（元UCLA教授）

時間 午後1時～午後4時30分

会場 京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

定員 各回100名（要事前申込・先着順）

料金 無料（ただし、マンガミュージアム入場料は別途必要）

参加方法 詳細は、後日、日文研ウェブサイトをご確認ください。

(2) 公開シンポジウム「縮小社会，文化はどうなる！？」

展覧会の内容を解説・補完する公開シンポジウムを開催します。第1部では、トルコ在住で、「わたし今、トルコです。」などで知られるマンガ家の市川ラク氏をゲストに、日本の外から〈縮小社会〉について語ります。第2部では、展覧会の元となった日文研の研究会メンバーが、あらためて〈縮小社会〉の現在と未来について議論します。

出演者 市川ラク（マンガ家）※オンライン出演／吉村和真（京都精華大学教授，第1部ゲスト）／共同研究会メンバー＋高橋耕平（第2部）

日時 2022年3月13日（日）午後1時30分～午後4時30分

会場 京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

定員 100名（先着順）

料金 無料（ただし、マンガミュージアム入場料は別途必要）

参加方法 事前申込不要 ※当日午前10時30分よりミュージアム館内にて整理券を配布。

(3) 「人がつながる屋台カフェ」＋トークショー「屋台から社会的処方へ」

展覧会の「医療・福祉」セクションでも展示されている「屋台カフェ」は、「医者や看護師など医療従事者が小さな屋台をひいて街を歩き、コーヒーやお茶をふるまいながら、気軽に健康の話をする活動」です。イベントでは、このカフェを主催している医師の守本陽一氏が、コーヒーをふるまいつつ、実際に健康相談に応じます。

トークショーでは、守本氏に加えてフランスの地域精神医療に詳しい三脇康生氏も招き、地域医療にアートを活かす可能性について語ります。

トークショー出演者 守本陽一（公立出石医療センター総合診療科医員／一般社団法人ケアと暮らしの編集社代表理事）／三脇康生（仁愛大学教授、精神科医）／服部正（甲南大学教授、聞き手）

日時 2022年3月19日（土）

屋台カフェ：午後1時00分～午後2時30分

トークショー：午後3時～午後4時30分

会場 京都国際マンガミュージアム 1階 デッキテラス（屋台カフェ）／ギャラリー6（トークショー）

トークショー定員 20名（先着順）

料金 無料（ただし、マンガミュージアム入場料は別途必要）

トークショー参加方法 事前申込不要 ※当日午前10時30分よりミュージアム館内にて整理券を配布。

7 参 考

◆ しりあがり寿（しりあがり・ことぶき）

マンガ家。1958年静岡県出身。ギャグを基調にしつつ、生と死をみつめた哲学的作品「弥次喜多 in DEEP」で、第5回手塚治虫文化賞「マンガ優秀賞」（2001年）受賞。第46回文藝春秋漫画賞（2000年）受賞の「時事おやじ」シリーズや、『朝日新聞』で連載中の「地球防衛家のヒトビト」など、社会に対する鋭い感性が発揮された作品も少なくない。3.11直後に描かれた「海辺の村 discontinuous day」収録の『あの日からのマンガ』は、第15回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞（2011年）を受賞した。

◆ 市川ラク

マンガ家。2008年、「ひつじの涙」を『月刊コミックビーム』に発表し、デビュー。初のオリジナル長編作品「白い街の夜たち」で、トルコの文化に魅せられていく専門学校生の青春を描く（2013～15年）。2015年、トルコに移住、そこでの生活をレポートするエッセイマンガ「わたし今、トルコです。」を連載（2017～18年）。最新作は、ハレムを舞台に、女奴隷たちの生を描き切った「オダリスク」（2020～21年）。

◆ 高橋耕平（たかはし・こうへい）

アーティスト。ドキュメンタリー形式の映像を中心に、パフォーマンスの記録やアーカイヴ資料を用いた、普段見過ごされがちな領域に焦点を当て、それらに潜む歴史や物語を視覚化する作品を制作する。近年の展覧会に「コレクションとの対話：6つの部屋」（京都市京セラ美術館、2021年）、「切断してみる。－二人の耕平」（豊田市美術館、2017年）、個展「高橋耕平 街の仮縫い、個と歩み」（兵庫県立美術館、2016年）など。

8 問合せ先

京都国際マンガミュージアム（担当：中村）

TEL：075-254-7414

FAX：075-254-7424

9 その他

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，展示・イベント企画を，急遽延期や中止，あるいは実施方法を変更のうえで開催させていただく等の可能性がございます。詳細は京都国際マンガミュージアムのホームページにてご確認ください。